

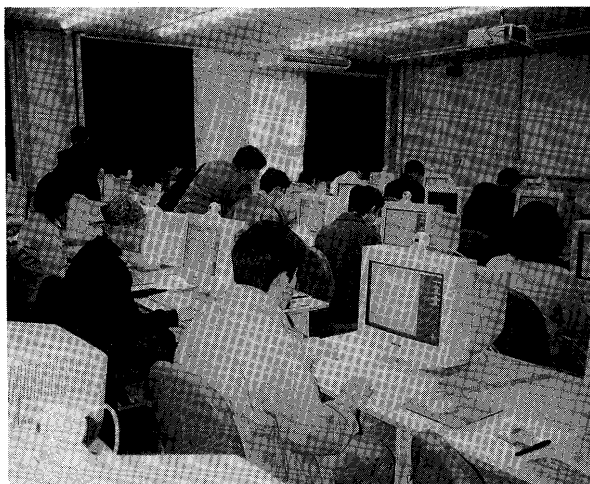
の利用と有機的に結合させることで、情報検索のためのメディア利用のみならず論文作成にむけた手順を学生自らが習得することを狙いとしている。新しい情報環境に対応した教養教育の新たな方向が模索されているが、この講義はそのためのひとつの試みとして位置づけられる。

(2) 授業の方法

具体的な授業の進め方としては、パソコンの基本操作から、図書館資料を中心とした情報検索法やインターネットについて学習しながら情報源の調査、情報の収集、情報の整理と利用についてのノウハウを習得し、学生自身が決めたテーマについて資料を収集し、レポートをまとめるまでを学習するものである。本講義の日程と内容標題及び担当教官と図書館職員名を表1に示した。対象学生は文科系学部2年生以上で、定員は端末機器の台数の関係で50名とした。なお、授業風景を写真1に示す。

また、受講する学生のレベルを把握するために10月

写真1



17日と24日（第1回と2回目）に吉村大学教育開発研究センター長の作成したアンケート調査を行った。その設問と結果を表2に示した。コンピュータを自分で持っている者は47名の回答中17名であった。また、端末機器毎に受講学生を固定し出席状況を把握した。

表1 「情報検索とその活用」(後期 木曜2限) 講義日程

No.	月 日	内 容 標 題	担当教官	図 書 館 職 員	教 室
1	10/17	情 報 化 社 会 (講 義)	小林俊一		教養校舎D308
2	10/24	情 報 と 図 書 館 (講 義)		栗原道夫	〃
3	10/31	学 術 情 報 の 使 い 方 (講 義)	伊藤 守		〃
4	11/7	パソコンの基本機能と操作1 (講義・演習)	永井雅人	*中野美智子、佐藤祐介、高島 学	〃
5	11/14	パソコンの基本機能と操作2 (演習)	永井雅人	*中野美智子、佐藤祐介、高島 学	〃
6	11/21	E-mail の 使 い 方 (演 習)	卯田 強	*中野美智子、寺尾清志、小山葉子	〃
7	11/28	図 書 情 報 検 索 1 (演 習)		*増子祥子、栗原道夫、山本裕子	〃
8	12/5	図 書 情 報 検 索 2 (演 習)		*増子祥子、栗原道夫、山本裕子	図 書 館
9	12/12	総 合 演 習 1 (演 習)	伊藤 守	*中野美智子、増子祥子、高島 学	〃
10	12/19	雑 誌 情 報 検 索 (演 習)		*栗原道夫、寺尾清志、小山葉子	〃
11	1/9	新 聞 記 事 検 索 (演 習)		*栗原道夫、寺尾清志、小山葉子	〃
12	1/23	資 料 の 整 理 (演 習)	伊藤 守	*増子祥子、佐藤祐介、高島 学	D308. 図 書 館
13	1/30	イ ン タ ー ネットをのぞく (演習)	卯田 強	*中野美智子、寺尾清志、小山葉子	教養校舎D308
14	2/6	総 合 演 習 2 (演 習 ・ ま と め ・ アンケート)	小林俊一 伊藤 守 永井雅人 卯田 強	全 員	教養校舎D308

*は演習責任者

3. 授業内容

第1回 情報化社会（講義）

授業のガイダンスを兼ねて、小林図書館長が講師、図書館スタッフの紹介を行った後、OHPを使用して情報化社会についての一般的な講義を行った。その他卯田教官よりE-mailについての説明とアドレスを与えるための申請方法について説明が行われた。更に前述した吉村大学教育開発研究センター長によるアンケート調査が行われた。

第2回 情報と図書館（講義）

① 図書館資料の配置について

中央図書館の中で、一般図書・参考図書・雑誌・新聞・視聴覚資料などがどのように配置されているかを説明した。

② 資料の検索について

本学が所蔵する図書・雑誌等を検索する手段として、オンライン目録（OPAC）・カード目録・冊子体目録があることを説明し、併せて日本十進分類法（NDC）についても具体的な例を挙げて話をした。

また、雑誌の論文や、本学が所蔵していない図書に関しても、CD-ROMや冊子体の目録を使って検索できることを説明した。

③ 図書館の利用について

利用するための手続き及び守るべきマナーについて話をした。

④ その他のサービスについて

文献複写・他大学からの図書の現物借用・他大学の図書館を利用するための紹介状について説明した。

第3回 学術情報の使い方（講義）

この授業では、従来教養教育のなかでも十分触れられずに来ているにも関わらず、大学教育のなかで最も重要な教育プロセスのひとつである「レポート作成」「論文作成」のための様々な手順を「情報検索」と関連づけて講義することを目的とした。内容は以下の通りである。

- ① レポート、論文とはなにか
- ② 文献、雑誌の表記の仕方
- ③ 文献、雑誌検索のためのツール
- ④ 電子メディアによる検索の実際
- ⑤ 本授業に関するレポートの概要と形式

第4回 パソコンの基本機能と操作1（講義・演習）

① 1946年ペンシルベニア大で製作されたENIACに始まる汎用コンピュータ開発及びインテルによって開発されたマイクロプロセッサ I 4004に始まるパーソナルコンピュータの歴史を概略的に講義した（担当：卯田）。

② コンピュータ（Macintosh performa 6220）の電源のon/off、基本的なキー操作、マウス操作によるドラッグ、カットアンドペースト、ファイルの保存方法（担当：佐藤）及び日本語入力プログラム「ことえり」の入力方法（担当：中野）の実習を行った。

それなりに工夫を凝らしたが、既にパソコンを使いこなしている学生にはまったくつまらなく、全然使用したことのない学生には消化不良になってしまったようである。学生のレベルの違いによるこうした問題はこのような授業の最初にいつでも必ず起こるものである。どのように対処すべきかは今後検討を要する。

第5回 パソコンの基本機能と操作2（演習）

教養校舎D308教室において、Power Macintosh 8500を使用させての演習を行った。演習内容は、パソコンの起動・停止、フロッピーディスクの取扱方法、アプリケーションプログラムの操作方法等、パソコンの基本操作等である。

第6回 E-mailの使い方（演習）

第1回にE-mailの申請用紙を配布し、アカウント名とパスワードを記入して提出させ、予め学生各自のアカウントをメールサーバに設定しておいた。

インターネットのごく簡単な概略、電子メール用プログラムEUDORAの初期設定の仕方、メールの送受信の練習を行った。また、ネットワークのエチケット

について注意を行った。

サーバの調子が今一つであったので（原因は不明）、なかなかメールの送受信がうまく行かなかった。この回以降電子メールが使用可能となったが、ほとんど学生たちには利用されなかったようである。次回の講義場所や諸連絡など、口頭だけではなく、電子メールも全員に出して、利用の効率を図る工夫が必要であった。

第7回 図書情報検索1（演習）

図書検索及び文献収集の流れを大まかに説明し、テーマから文献を探すツールとしての二次資料を紹介した。ここでは、国立国会図書館蔵書目録を中心にその構成、使用方法、記載例の説明を行った。その後、国会図書館所蔵・明治期刊行図書目録、日本書籍総目録、日本件名図書目録及びBook Pageについて紹介し、それぞれ独自の活用方法があることを説明した。対象学生に2年生も含まれているため、洋書検索については割愛した。

また、CD-ROMについては、上記資料が現在CD-ROM化されているという説明に止め、使用法は次回演習に廻した。

次にホームページの新潟大学蔵書目録を使用して学内の図書検索について演習を行った。例題を和書3冊、洋書3冊用意して書名からの検索、著者名からの検索及び学内所在の見方などの説明を行い、図書館内の請求記号からの図書の探し方として、日本十進分類法についても簡単に説明した。

第8回 図書情報検索2（演習）

前回紹介した図書検索方法について図書館内で実際に各自が演習することを目的に行った。方法としては、学生を4グループに分け、カードコーナー・OPAC（目録検索端末）コーナー・二次資料コーナー・CD-ROMコーナーを1ヶ所20分程度で廻ることとした。検索項目は各自が設定したテーマに沿って行ってもらう、時間が少ないため、使い方を知ってもらうことを目的とした。

カード検索は、OPAC検索後出版年1986年以前の図書について行うこと、およびカード目録の構成、日本十進分類法について簡単に説明後演習した。

二次資料検索は、構成及び使い方の説明後演習した。

OPAC検索は、ホームページのものと内容的には同じであるが、画面表示が異なっているため再度演習を行った。

CD-ROM検索は、検索方法の説明を行った後4台で演習を行った。

第9回 総合演習1（演習）

第8回の様子をみて、図書館だけで演習をするのは端末台数の不足で無理と思われたので、D308教室と図書館の両方を使用した。

総合演習1については、図書情報検索を各人の課題について行うことになっていたが、前回、図書館OPACやカード目録、冊子体目録だけでは手持ち無沙汰の学生が見受けられたため、急遽資料「インターネットで使えるOPAC」を作成配布、D308教室でインターネット上の図書情報についても検索できるようにした。

実際に学生をみていると、自分は既に図書館OPACは体験しているので必要ないという者もいた。カード目録はあまり必要性を感じないし、冊子体目録をみるなら端末をたたいて検索したい、というところが現実のようである。

この図書情報検索の演習を魅力あるものにしていくにはもうひと工夫する必要がある。

第10回 雑誌情報検索（演習）

- ① ビデオ（図書館の達人 3、雑誌記事の調べ方）の鑑賞。このビデオでは、図書と違った雑誌の特徴や雑誌の種類、雑誌記事索引の使い方、また大学間で文献の共同利用が行われていることなど、雑誌についての一般的な利用方法が紹介されている。筋にも趣向をこらしてあり、大いに学生の興味を引いたようだ。
- ② より実際的に新潟大学における雑誌記事・論文などの文献収集の流れを説明。特にOPAC（所蔵目録）の使い方と雑誌の保管場所、文献複写の申込み方法を説明した。
- ③ 冊子体の雑誌記事索引の使い方を、雑誌の目次、雑誌記事索引の索引ページ、記述ページなどを示しながら説明した。

- ④ コンピュータによる検索の一般的な注意点、前方一致等や文字の種類の違い（全角・半角、日本語・英語）の説明。
- ⑤ 新潟大学にある雑誌記事索引や CD-HIASK（朝日新聞の全文記事情報）の CD-ROM の画面を示しながら、検索の流れを説明した。
- ⑥ 新聞の保管状況と新聞記事検索ツールを紹介。

第11回 新聞記事検索（演習）

附属図書館 2 階マルチメディアコーナー付近において、学生を 3 グループに分け、各 25 分程度のローテーションで以下の演習を行った。

- ① 雑誌記事索引累積索引版等の冊子体二次資料を使って雑誌記事を探す。
- ② 雑誌記事索引 CD-ROM 版を使って雑誌記事を探す。
- ③ CD-HIASK（朝日新聞全文記事データベース）を使って新聞記事を探す。

欠席者が多かったため 1 グループ 10 人程度となった。それぞれに職員 1 人が付き、まず簡単な説明を行った後、各自の課題について実際に検索を行わせた。行き詰まった時は職員が助言を行っている。ほとんどの学生は特に問題なく検索できていたが、十分な検索結果を得るには時間が足りなかったように思われる。②・③については、出版業者から借用したサンプル版の CD-ROM により、各々 6 台のパソコンを用意したが、台数不足であった。来年度は 1 人 1 台の環境で行えればと考えている。

第12回 資料の整理（演習）

この授業では、これまでの実習を踏まえ、学生が授業終了後提出するレポートの内容・形式について講義した。

学生は授業時間や授業外の実習時間で、書籍・雑誌に関する情報検索実習を行ってきた。この実習作業の全体像をレポートに記すように以下の事項を説明した。

- ① 各自の検索テーマのもと、検索項目を設定したが、検索を実行する過程で項目を変更した場合には、その判断の理由・根拠を明記すること。
- ② 検索手順がはっきりわかるように、フローチャー

ト式でレポートを作成すること。

- ③ 検索項目ごとに、検索件数を明記し、その中で自己のテーマに適合した書籍・雑誌論文について述べる。
- ④ 検索作業全体について、自己評価を行い、今後の課題について述べる。
- ⑤ 講義全体についての感想、今後改善すべき点について述べる。

以上、5 点をレポートに明記するように指導した。授業の後半は、各自がレポート作成に向けた自由な検索実習の時間とした。

第13回 インターネットを覗く（演習）

インターネット・ブラウザ Netscape Navigator の基本的な使用方法、インターネットを通じて公開されている日本国内の大学図書館の OPAC の情報検索方法、その他日本の公共図書館・海外の図書館などのアクセス方法などの実習を行った。また、サーチエンジンを用いた web の検索の仕方も実習した。

大学図書館 OPAC のアクセスにはブラウザによる場合と telnet による場合とがあるが、後者については時間がないため割愛された。

第14回 総合演習 2（演習・まとめ・アンケート）

各学生が設定したテーマに沿って文献検索を行わせ、その成果をレポートで提出させ、それによって成績の評価を行った。

4. 授業の評価

(1) 学生による評価

授業の最終日に、大学教育開発研究センターが「授業改善のためのアンケート調査」を行った。その結果に基づいて学生による授業の評価を要約すると概ね以下のごとく好評であった。

- ① ほとんどが計算機に興味をもつ必要性を感じている学生が受講し、授業の難易度も普通もしくは易しいと感じ、大部分が有益であったと答えた。
- ② 有益だった部分は、計算機の操作手順、プログラムの使い方などを習得した点であったと答えた。

- ③ 教員が熱意をもって授業に当たったことなどが高く評価されており、指導する教員（図書館職員を含む）の数にも現状のままで良いとの答が多かった。
- ④ 将来とも計算機の操作を習得するための形態として現在のような教養科目として実習して欲しいとの希望が多かった。インターネットについても今後使ってみたいという希望が多かった。
- ⑤ この授業のために、毎週木曜日の16:00～18:00の時間帯にこのマルチメディア教室（D-308）が開放され大学院の学生が一人配置されるなど配慮されたが、その使用状況は6割位の学生が使用した。使用しなかった学生は講義かアルバイト等が重複している者が多かった。
- ⑥ 9割近くの学生が講義以外でも附属図書館のOPACを利用したことがアンケート調査からも判明しており、この授業の成果は良好であった。

(2) 図書館職員によるこの授業の評価

良かった点を挙げると以下のごとくである。

- ① 図書館職員も講義をする機会を与えられ貴重な体験となった。
- ② 受講者の使用するパソコンの画面に、受講者の操作するパソコンの画面が表示できるだけでなく、講師の操作により、講師の操作するパソコン画面をも表示できる設備は、講義を進める上で特に便利であった。
- ③ 学生にとって、メールを使えるというのは大きな魅力のようだった。パスワードについて、卯田教官のわかりやすく、ポイントを得た説明は好評であった。
- ④ 学生が割りと積極的だったのであまり手がかからなかった。全体としてはまじめに聴いてもらえたようである。
- ⑤ ビデオを使って、学生をうまく導入していた10コマ目の雑誌情報検索の演習は良かった。このような授業方法を検討していくべきである。

反省点や問題点を羅列すると以下のとおりである。

- ① 図書館利用法の習得という点に限れば、半年か

けてぼつりぼつりと実習する方式は、あまり効率的とは思えない。

学生に切迫感がない、レベルがまちまち、関心のある分野もそれぞれ違うというのでは、当然のことではあるが。

- ② 実際に論文に取り組んでいる（あるいは取り組もうとしている）3・4年生に関しては、参考調査係が行っている「資料の探し方ガイダンス」によって基本を理解した後に、実際のテーマに沿って個別対応することとし、2年生を対象とする演習としては、ある程度広く浅くという方向を取らざるを得ない思う。

- ③ 自分でパソコンを持っていて、自宅から検索もできる環境にあるという学生が、実習には欠席してレポートを作ってきたという例があった。こういう学生なら何もこの科目を受講する必要はないと思われる。ひとつの考え方として、4年生は対象外として、2年生および人数に余裕があれば3年生も受け付けるという方向に絞ったほうが本来の目的に合っているのではないか。

- ④ CD-ROMを使った雑誌・新聞の情報検索では、学生数に対して、使用できるパソコンの台数が少なく、学生には気の毒であった。

2人に1台の割合というような場合には、学生が自主的にコンビを作ってくれるとは限らないから担当者が学生の組み合わせを指定するか、あるいはCD-ROMの検索に関してはパソコンの台数と同じ人数だけを時間を決めて割り当てて、その他の学生は、冊子体の目録の検索実習を行うという工夫が必要である。

- ⑤ OPACを使った図書の検索に関しては、30台程度でもレスポンスが余りに遅いので、かなり工夫が必要である。

ヒット件数が多すぎるために検索語としてはいけない単語をリストアップして、学生に配布する必要があるように思われる。

また、他大学のデータベースを検索させるとすれば、担当者としても、適当な大学を予め選択しておいて、慣れておくくらいのことは必要と思われる。

- ⑥ 図書館職員はこの講義のテキストを編集することにより、詳細な図書館利用ガイドを作成することができると思う（現在なし）。
- ⑦ 学生は実際に役立つ授業を求めているのではないか。
- 演習を中心にしたCD-ROMの時間がもう1時間位あってもよい気がする。
- 雑誌・新聞以外にも図書館には有用なCD-ROMが多く所在する。
- ⑧ ⑦とも関係するが、この講義の前段階において学生は早くパソコンにさわりがっているようである。1コマと2コマは統合してもよいと思われる。
- ⑨ 図書館のOPACについては、かなりの学生がすでに慣れており、あまり新鮮さのない表情できていた学生が多かった。カード目録、冊子体目録もしかりで、図書情報検索については、工夫が必要ではないかと感じた。
- ⑩ 全体的に初年度で仕方ないことと思うが、検討準備が不十分と感じられる。どのような90分にするか担当者で詰め、全体で模擬授業をしてみる位の準備が必要であり、2年目は、皆で90分の内容をどう高めていくかが課題だと思う。
- ⑪ コマ数不足や、「情報検索とその活用」のタイトルからも、計算機の使用に関する内容は、この講義とは切り離した方がよいように感じられた。
- 講義内容のうち、図書館利用のノウハウのような内容については、受講者（一部の学生）だけに行うのはどうかと思う。
- 全ての学生に対する講義でないならば、図書館は、講師として参加する形態ではなく、「図書館利用の手引」のような刊行物を作成し、全入学生

に配布する努力や、ガイダンスを強化すべきと感じた。

- ⑫ インターネットをどれ位みているかについては個人差が大きいという感じを受けた。アンケートで、インターネットをどのように使っているか聞いてみると参考になると思う。

インターネット上の図書館情報については、OPACに限らず様々な情報サービスが行われ始めている。この演習の時間をそのような幅を持った内容のものに展開していければ、なお良くなるであろうと思われる。

- ⑬ パソコンの操作については個人差が大きいということがわかった。初めてパソコンに触れる学生もいるので、アンケート結果をよくみておくべきである。

5. おわりに

イギリス、ケンブリッジのカレッジにおける授業の中心は、スーパーヴィジョンと呼ばれる個人授業であり、最も贅沢な授業方法である。日本の大学のように大人数の授業はイギリスでは評価が低く、そのような授業を行っている大学の評価も低いと聞く。その意味で本講義は、数人の図書館職員が常時参画してコンピュータの操作を学生一人一人に懇切丁寧に指導しており、学生からの評価が高かった所以であろう。参加した図書館職員からは色々と前述したような反省点や問題点も提出されたが、この授業は次年度も続けることが決まっている。今後は前もってテキストを作るなどして、方向性と目的を改善して成果を授業に参加できなかった学生にも役立てて貰いたいと願うものである。

表2 教養科目「情報検索とその活用」(1996年10月17・24日) アンケート調査の回答結果

回答者(出席者) 人文学部2年4名、3年2名、4年0名、法学部2年18名、3年4名、4年9名、教育学部3年1名、4年1名、経済学部2年5名、3年2名、4年1名 合計47名

設問I. コンピューターの使用経験・学習の経験について

1. 下記の内から該当するものを選んで下さい

- ①コンピュータの類に触れたことは全くない…0、②フアアコム(ゲーム)等の経験はあるが、パソコンの経験はない…10、③パソコンに多少触れたことがある…32、④パソコンをかなり使っている…5、⑤その他…0

2. パソコンを使った場合の機種は次の内どれですか(該当するものを全てあげて下さい)

- ①NEC系(PC98など)…32、②マッキントッシュ…10、③IBM系(AT互換機を含む)…11、④その他…2(FMW)

3. パソコンを使用した場合の目的とソフト名をあげて下さい(該当するもの全て)

- ①ワープロ…24(ソフト名: 一太郎…14、アシストレター…8、ワード…3、クラリスワークス…3、simple text…1、Yoo Edit…1)、②表計算…12(ソフト名: ロータス123…8、エクセル…5)、③ただなんとなく使ってみた…6、④E-mail…15、⑤インターネット…14、⑥その他…5(BASIC、Cubase Score、TEX、C、ゲーム)

4. コンピューターについて今までに学習したことがある場合に全て答えて下さい

- ①中学もしくは高校の授業で習った…3(学校名: 群馬県渋川中学、吉田中学、羽茂中学)、②大学の教養科目・専門科目で習った…26(科目名: 情報処理概論…19、数理科学の世界…1、ネットワーク概論…1、情報とコンピュータ…1、社会情報理論(法)…7、メディア論…1、メディア論概説I…1、文化コミュニケーション論…1、情報文化実習…1、心理学基礎実習…1、ゼミ…1)、③コンピュータ学校等に行った…0、④自分で勉強した(個人的に習った場合を含む)…9、⑤その他…0

設問II. 図書館の利用状況・要望等について

5. 新潟大学附属図書館(図書室)の利用状況(該当するものを全てあげて下さい)

- ①大学の中央図書館を使ったこと…46、②学部・学科図書室(研究室図書を含む)を使ったこと…26、③公共図書館(県・市町村)を使ったこと…27、④図書館には行ったことがない…0、⑤その他…1(教育学部では学部図書室を使用できない。)

6. 新潟大学附属中央図書館に行ったことがある場合に答えて下さい(複数回答可)

- ①図書を借用するために…41、②参考図書(辞書・事典等)を見るために行った…32、③雑誌を見るために行った…24、④自習するための場所として行った…41、⑤コピーを取る(館外依頼を含む)ために行った…6、⑥コンピュータを使って図書情報検索をするために行った…25、⑦その他…1(昼寝)

7. 中央図書館の利用案内について答えて下さい(複数回答可)

- ①学年初めのガイダンスに出席した…26、②ゼミ等で図書館の人にガイダンスして貰った…7、③カウンセラーが個人的に教えて貰った…10、④ガイダンス(利用案内)をやっている事を知らなかった…5、⑤その他…4(学部の講義、法学学習法、やっていることは知っているが参加できなかった、冊子により知った。)

8. 中央図書館に対する要望(複数回答可)

- ①蔵書数を増やす…29、②閲覧席を増やす…15、③照明を明るくする…7、④窓口(カウンター)の対応を親切にする…5、⑤コンピュータに教材を入れて自習できるようにする…8、⑥書庫への立ち入りを認める…15、⑦その他…8(館内の温度調節によって気を使う…3、休日の利用時間の延長(夜9時まで)、蔵書がお話にならない、検索にもってあるはずの図書が書架にないことが多いが多すぎる、新しい本を増やす、蔵書を全面的に新しくする、音楽芸術分野の充実、3階の奥は空調が利かなくてものすごく暑い、照明をなんとかして欲しい。)

設問III. 「情報検索とその活用」の授業について

9. この授業を受ける理由は何ですか(複数回答可)

- ①情報検索のやり方について知りたかった…33、②この授業を受けて図書館をフルに活用したいと思った…15、③文系でもコンピュータリテラシーが必要だと思った…23、④専門の学習を進める上で必要になると思った…16、⑤講義概要を読んで興味を持った…24、⑥その他…8(PCを持ってきているがワープロ機能のみしか使用していないのもっと有効に活用したい、インターネットをやってみてみたい、司書の仕事に興味があるので、就職に必要となるため、就職先で知識を生かすため…3、パソコンを多様に使えるようになりたい)

10. 実習の時間について(複数回答可)

- ①実習に十分な時間をとって欲しい…33、②授業時間以外にもコンピュータの実習のできる様に欲しい…32、③実習は図書館のコンピュータでもできるように欲しい…20、④授業時間内の実習で十分である…0、⑤実習はあまり必要でない…0、⑥その他…3(まだよく分からない、インターネットを用いた情報検索、大学外のデータベースの使い方、コンピュータについてやる気はあるが苦手意識が強くて上達しないので困ったときに教えて欲しい)

設問IV. 情報教育及びコンピュータ環境について

11. 大学のコンピュータ・情報教育について(複数回答可)

- ①文系でも学生全員が受けられるようにすることが必要である…34、②1年生から受けられるようにする必要がある…19、③情報教育については図書館で対応してくれれば、授業としてやる程の事ではない…0、④コンピュータの使い方は技術の問題だから各人が勉強すれば良いので、大学でやることではない…2、⑤その他…9(開講コマ数が学生の要望に対して全く不足している、端末の台数を増やして希望者は全員受け入れて欲しい、全員が受講できる設備が必要であるからどろかは学生の希望による、通年で開講する、必修単位として設ける、入学時にE-mailのシステムで与える、1年での倍率が上がる、2年前にE-mailアドレスを貰ったが時代遅れのシステムで使えなかった、基本的には④であるが大学の端末の使用法は教えるべきだ、一人一端末の設置が必要)

12. コンピューター環境について(複数回答可)

- ①自分で持っている…17(PC98…7、エプソン…2、富士通DP…4、PC/AT…3、MAC…2、LC575…1) ②家にあることができる…3(富士通…1、エプソン…1、不明…1)、③研究室等のものを使うことができる…5(PC98…1、PC/AT…1、MAC…1)、④自由に使えるものはない…20、⑤1年生から自由に使えるものを大学で設置すべきである…14、⑥E-mailを個人で使えるように個人アドレスを与えて欲しい…17、⑦その他…11(近く購入予定、情報処理センターを利用、情報処理センターの利用時間の延長、個人アドレスは在学中ずっと使えるように、4年間統一して使えるE-mailアドレスを、就職活動のためにプロバイダーに入るのは馬鹿らしいのでホームページを自由に開設できるようにする、ワープロのみ、実家にはある)

設問V. その他、希望・意見等があれば自由に記入下さい

- D-308室のパソコン設備に感動した。○ゴージャスな授業だと思った。○全く知識がないので分かり易い授業をして下さい(2人)。○初めてなのでキーボードやマウスの使い方も分からなかった。○インターネットが不安だ。○インターネットを活用できるようにしたい。○図書館のマルチメディアコーナーの拡充を要望。○E-mailは在学中ずっと使用できるようにして欲しい。○字籍番号と同様に個人アドレスを与えるべきである。○端末を増やし、興味を持った人間がいつでも触れられるようにしたい。○今日配付されたプリントには参考文献が書かれていない。あったら書いてほしい。○大卒のネットワークよりインテリゲンシーを身につけたPC上の接続法を教える。○大学内部のネットワークによりインテリゲンシーを身につけた授業、卒業後に活かせるような内容を要望する。○コンピュータリテラシーを身につけたのでも頑張って欲しい。○初心者にも分かりやすくすすめて欲しい。○私立大に比較して国立大は遅れているので、情報化社会に対応できるように情報理科目を増やすことが必要。就職してからコンピュータ学校に通うのは悲しい。